

26P-pm168

名城大学薬学部におけるハイブリッド型 PBL (Problem-Based Learning) 教育の導入
○飯田 耕太郎¹, 大津 史子¹, 半谷 眞七子¹, 亀井 浩行¹, 野田 幸裕¹,
後藤 伸之¹, 吉田 勉¹, 岡本 光美¹, 森 健¹, 伊藤 達雄¹, 松葉 和久¹ (1名城大薬)

【目的】名城大学薬学部では、1年生の薬学入門 I に従来の PBL 教育とは別に、新しくハイブリッド型 PBL 教育を導入した。PBL 教育は学習者の主体的な自己学習による学習効果の高さから注目されている。一方、従来の講義形式は高度な知識を効率よく伝授できる利点があるものの、学習者は受け身的である。ハイブリッド型 PBL 教育はこれら両方の利点を組み合わせた教育法である。特に基礎知識の乏しい 1 年生には基調講義とまとめ講義を充実し、PBL による自己学習を補完できる。本報告では 1 年生の薬学入門 I におけるハイブリッド型 PBL 教育の導入について学生の自己評価アンケートを中心に考察した。

【方法】本年度は「患者中心の医療」をメインテーマにして医療現場で活躍する薬剤師、医師、その他医療者からオムニバス形式で、社会に貢献する薬剤師職能、患者中心の医療のあり方、医療を取りまく諸問題、医療人としてのヒューマニティー等に関する内容で実施した。初めに基調講義を行い、講義後学生達はグループで講義の中から課題を探求・決定する。1 週間で課題について自己学習し学習内容をまとめる。2 回目の授業では、学習内容をパワーポイントで発表した後、講師がコメントし最後のまとめ講義で知識を整理・補完する。

【結果・考察】講義から課題を探求し能動的に学習するハイブリッド型 PBL について、多くの学生が肯定的な高い評価を示した。「将来、人の命に関わる医療の担い手になることを認識する機会になった」では 94% の学生が肯定的な回答を示し「医療に関わる薬剤師の職能を理解する上で役立った」「この授業を通して医療や患者に関する課題、ヒューマニティーを学ぶことができた」などの感想が見られハイブリッド型 PBL が薬学導入教育に有効であることが示唆された。